

# 日本語母語話者による英数字と 英語アルファベットの仮名表記の傾向調査

清水勝昭

## 1. はじめに

本稿は日本語母語話者による外来語の表記方法についての調査報告である。

外来語が外国人日本語学習者にとって困難な項目の一つであることは、多くの研究で指摘されている。

カッケンブッシュ寛子・大曾恵美子（1990）やプレム・モトワニ（1991）は、外来語の習得は外国人にとって非常に困難なものであると述べ、その問題点を指摘している。

大曾（1991）、小林・カッケンブッシュ・深田（1991）、稲垣（1991）、玉岡（1997）、茜（1998）、間瀬・中東（1998）は外国人日本語学習者が英語をカタカナ表記する際の誤記例を分析し、外来語学習の音声・表記上の問題点を指摘している。

同様の問題を扱ったもので、中国人を対象とした調査として岡本（1997）がある。台湾の日本語学習者を対象とした調査として黄（2007）がある。

また、音声・表記上以外の観点として、小宮（1997）、彭飛（2003）、堀切（2008）などが外来語学習の問題点を指摘している。

外来語の学習が難しいことが指摘されている反面、日本語教育現場では必ずしも有効な手立てがとられていないのではなかろうか。堺典子、西平薫『ニュースからおぼえるカタカナ語350』（アルク、1999）のまえがきには「初級の学習では、発音、ひらがな、漢字、文型と学習しなければならない分野も広く、現場でのカタカナ語指導はなおざりにされているらしい」がある、と述べられている。

## 2. 調査の背景

外国人学習者にとって、日本語における外来語の表記方法の不安定さは学習上の障害の一つである。外来語の書き方については、平成3年度内閣告示第二号で、「一般の社会生活において現代の国語を書き表すための『外来語の表記』のよりどころ」が定められている（平成三年六月二十八日）。

ここでも外来語の表記は、時代変化、専門分野、個々人の好みによって、表記方法が定まっていないことが指摘され、よりどころとして示した表記以外の表記方法を「否定しない」。

日本語における外来語表記の「ゆれ」は、外国人の日本語学習、外国人に対する日本語教育に負の要素になっていると考えられる。

### 3. 調査の目的

本稿は外来語の表記方法についての調査報告である。調査では、日本語を母語とする者を対象に、英語を外来語としてカタカナで表記してもらい、その表記方法を集計し、どのような表記がどれだけあるかという傾向を数値化する。それにより日本語母語者が感覚的にとらえている表記方法、「日本人ならこう書く」という傾向を外国人日本語学習者へ示す。

本調査が扱うのは外来語である。外来語とは外国語を日本語の体系に取り入れたものであり、あくまでも日本語である。また、本調査が扱うのは表記であり、発音ではない。つまり、どう書くかであり、どう読むかではない。発音と表記は必ずしも一致していない。カッケンブッシュ寛子・大曾美恵子(1990)は外国語の日本語化の問題を「語形の日本語化」、「音声音韻の日本語化」、「表記における日本語化」に分けている。本調査は、日本語における外来語の表記の問題を扱う。

### 4. 調査の概要と特徴

調査対象は、筆者の勤務校の日本人学生とする。調査方法は、当方が提示した英語の数字及びアルファベットを、カタカナ表記してもらうこととする。提示する英語は、two から ten までの数字、および B から Z までの英語のアルファベットとする。

本調査の特徴は次の各点である。

(1) 規範表記を設定せず現実の表記を傾向として集計すること。

(2) 英数字と英語のアルファベットを調査対象とすること。

数字とアルファベットを使用した理由は次のとおりである。

① 認知度が高い。被験者の学歴、教養レベル、英語レベルの影響を受けにくい。

② 外来語としての認知度が時代の推移の影響を受けにくい。例えば、ポケベル、レコード、フロッピーなどの語は時代の推移によって認知度が変化する。

③ 以上の理由から、対象者と実施時期を問わず、追試がしやすい。

④ 『外来語の表記』に、よりどころになる規範的表記例が掲載されていない。

⑤ 日本語にはアルファベットを組み合わせた多くのアルファベット略語が存在している。

なお、数字の one とアルファベットの A は記入例「ワン」「エー」として提示したので、調査されない。

具体的な調査の条件としては、実施時期：2009年10月上旬、調査対象：「日本語表現法Ⅱ」の履修者の一部（無作為抽出）、57名（自動車工学科1年）とし、年齢は18歳から20歳が中心。全員日本語を母語とする。

## 5. 調査結果

被験者が実際に書いた表記について、その表記を書いた者の人数を集計した。集計にあたっては次の基準に従った。

(1) 単音と長音は区別する。

例：「トゥー」と「トゥ」は別の表記とみなす。

(2) 小書きと大書きは区別しない。

「ア」と「ア」、「イ」と「イ」、「ウ」と「ウ」、「エ」と「エ」、「オ」と「オ」は同じ表記とみなす。手書きアンケートの性質上、大小の判別が困難だからである。例えば、「ブイ」と「ブイ」は同じ表記とする。

(3) 表記例が一つしかないものは「その他」としてまとめる。すなわち、「その他5」とあるのは一つの表記例が五種類あったということである。

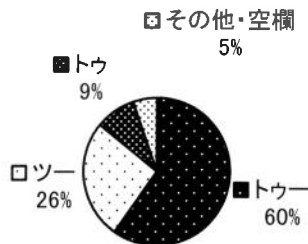
二つ以上表記例があるものは「その他」に含めずその実例を提示する。

(4) 何も回答しなかったものは「空欄」として集計する。

以下、集計結果を実数で示す。また、総数57に対する割合を求め、円グラフにする。

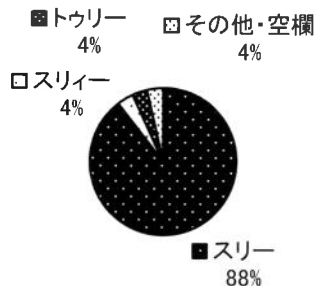
(1) two

トゥー 34      ツー 15      トゥ 5      その他 1      空欄 2



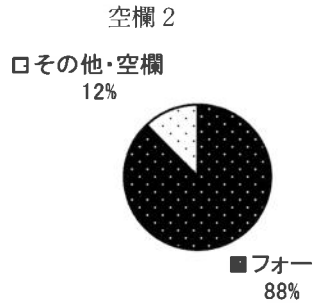
(2) three

スリー 51      スリイー 2      トゥリー 2      空欄 2



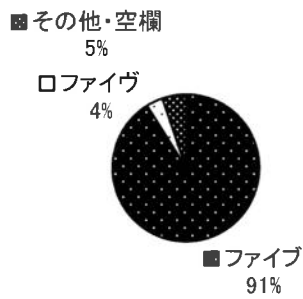
(3) four

フォー 50      その他 5



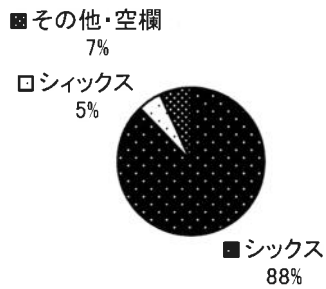
(4) five

ファイブ 52      ファイヴ 2      その他 1      空欄 2



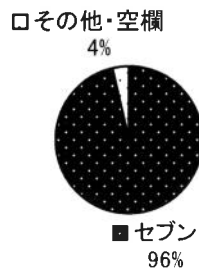
(5) six

シックス 50      シックス 3      その他 2      空欄 2



(6) seven

セブン 54      その他 1      空欄 1

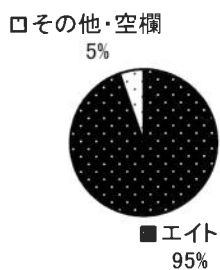


(7) eight

エイト54

その他1

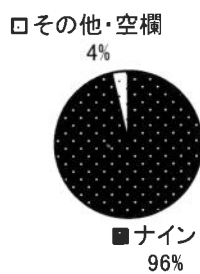
空欄2



(8) nine

ナイン55

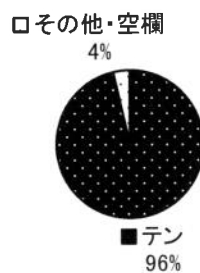
空欄2



(9) ten

テン55

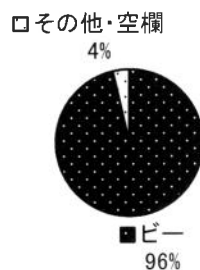
空欄2



(1) B

ビー 55

その他2

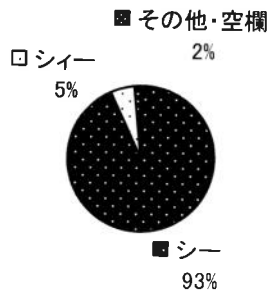


(2) C

シー 53

シー 3

その他 1

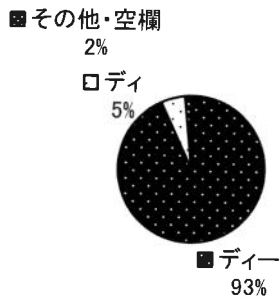


(3) D

ディー 53

ディ 3

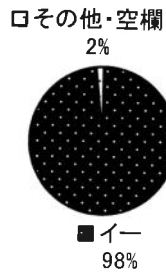
その他 1



(4) E

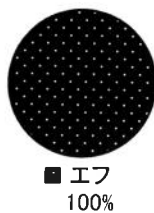
イー 56

その他 1



(5) F

エフ 57



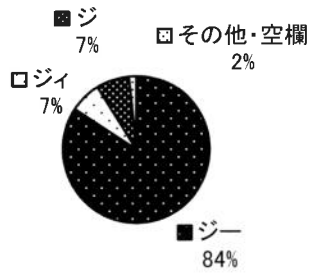
(6) G

ジー 48

ジィ 4

ジ 4

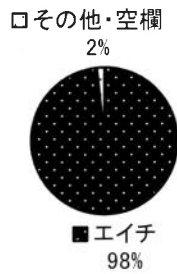
その他 1



(7) H

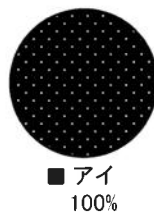
エイチ 56

その他 1



(8) I

アイ 57

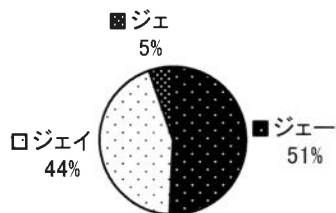


(9) J

ジェー 29

ジェイ 25

ジェ 3

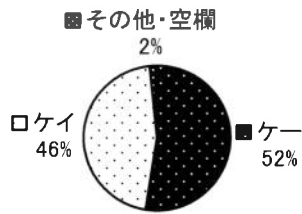


(10) K

ケー 30

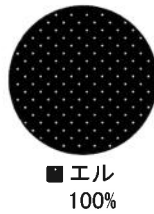
ケイ 26

その他 1



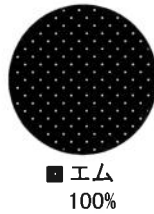
(11) L

エル 57



(12) M

エム 57

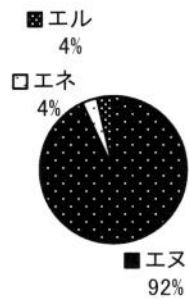


(13) N

エヌ 53

エネ 2

エル 2



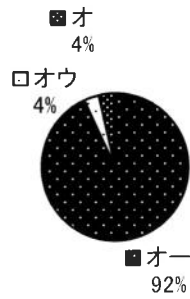


(14) O

オー 53

オウ 2

オ 2



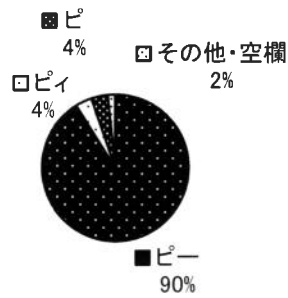
(15) P

ピー 52

ピィ 2

ピ 2

その他 1



(16) Q

キュー 54

キュウ 3

キュウ 5%

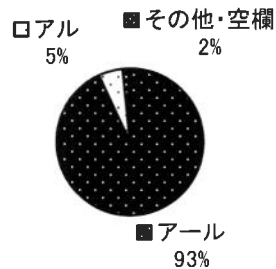


(17) R

アール 53

アル 3

その他 1

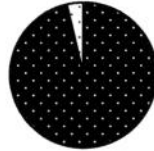


(18) S

エス55

その他 2

□その他・空欄  
4%



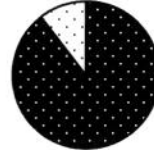
■エス  
96%

(19) T

ティー 51

ティ 6

□ティ  
11%



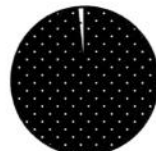
■ティー  
89%

(20) U

ユー 56

その他 1

□その他・空欄  
2%



■ユー  
98%

(21) V

バイ 45

ヴィ 7

ヴィー 2

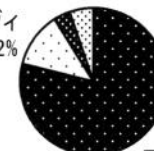
その他 2

空欄 1

□その他・空欄  
5%

■ヴィー  
4%

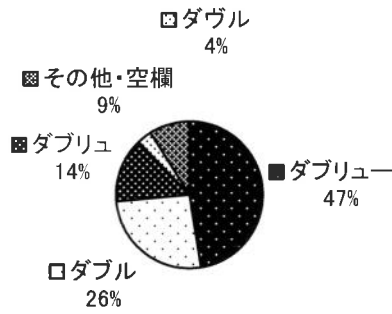
□ヴィ  
12%



■バイ  
79%

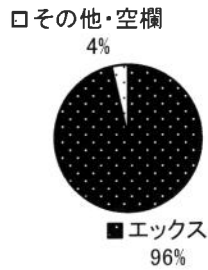
(22) W

ダブリュー 27      ダブル 15      ダブリュ 8      ダヴル 2      その他 4      空欄 1



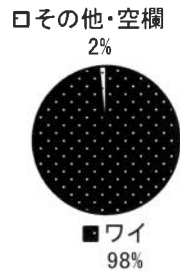
(23) X

エックス 55      その他 1      空欄 1



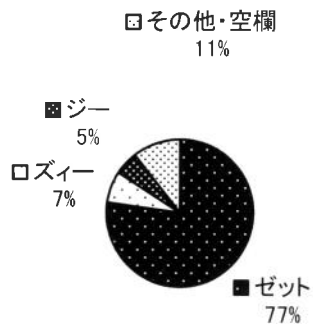
(24) Y

ワイ 56      空欄 1



(25) Z

ゼット 44      ズイー 4      ジー 3      その他 5      空欄 1



### 6. 集計結果の分析

以上の結果をもとに、「大多数が一致した表記をするもの」と、「人によって表記が分かれるもの」とに大別するべく分析を試みた。

まず各語、各字について、最も多い表記を「第1表記」とすると、第1表記が90%以上のものと、90%未満のものに分類する。

	第1表記が90%以上を占める	第1表記が90%未満
英数字	five seven eight nine ten	two three four six
アルファベット	B C D E F H I L M N O P Q R S U X Y	G J K T V W Z

第1表記が90%以上のものを「A類」、90%未満のものを「B類」とする。

二番目に多い表記を「第2表記」とし、「B類」について、「第1表記」の割合と「第2表記」の割合の差を求める。この差が、80%以上のもの、50%以上80%未満のもの、50%未満のもの三つに分類する。

第1表記と第2表記の差が80%以上	第1表記と第2表記の差が50%以上80%未満	第1表記と第2表記の差が50%未満
three four six	G T V Z	two J K W

第1表記と第2表記の差が80%以上のものをC類，第1表記と第2表記の差が50%以上80%未満のものをD類，50%未満のものをE類とする。

A, C, D, Eの各類は，つぎのように表すことができる。

A類…ほぼ全員が一致した一つの表記をするもの。

C類…優勢な一つの表記をするもの。

D類…優勢な一つの表記をするが，それに順ずるもう1つの表記の可能性もあるもの。

E類…拮抗した二つの表記があるもの。

以上の分類を表にまとめると次のようになる。

ほぼ全員が一致した一つの表記をするもの	優勢な一つの表記をするもの	優勢な一つの表記をするが，それに順ずるもう一つの表記の可能性もあるもの（（ ）内は順ずる表記）	拮抗した二つの表記があるもの（ただし，上段の表記がより優勢）
five ファイブ seven セブン eight エイト nine ナイン ten テン	three スリー four フォー six シックス		two トゥー ツー
B ビー C シー D ディー E イー F エフ H エイチ I アイ L エル M エム N エヌ O オー P ピー Q キュー R アール S エス U ユー X エックス Y ワイ		G ジー (ジイまたはジ)  T ティー (テイ)  V ブイ (ヴイ)  Z ゼット (ズイー)	J ジェー ジェイ  K ケー ケイ  W ダブリュー ダブル

上表で「拮抗した二つの表記があるもの」は，実際の社会でも複数の表記が使われている。その実例を見てみよう。

Jは51%が「ジェー」と，44%が「ジェイ」と表記した。関係する会社の公式ウェブサイトによる（以下同様）と「JCBカード」（信販カード）は「ジェー」と表記し，「JR東海」（鉄道会

社), 「JA 共済」(農業協同組合), 「JTB」(旅行会社)は「ジェイ」と表記する。

Kは52%が「ケー」と、46%が「ケイ」と表記した。「KBS 京都」(放送局), 「K's」(家電量販店)は「ケー」と、「KDDI」(携帯電話会社), 「MK タクシー」(タクシー会社)は「ケイ」と表記する。

Wは、47%が「ダブリュー」と、26%が「ダブル」と、14%が「ダブリュ」と表記した。「BMW」(自動車会社)は「ダブリュー」と表記するが、「仮面ライダー W」(子供向けTV番組)は「ダブル」と表記し、「アイシン AW」(自動車部品製造)は「ダブリュ」と表記する。なお、「ダブル」については、doubleの外来語である「ダブル」(例えば、「ダブル割引」(au 携帯電話), 「ダブルチーズバーガー」(ファストフード)など)との混同あるいは兼用の影響も考えられないだろうか。

twoは60%が「トゥー」、26%が「ツー」と表記した。「ツー・アウト」(野球用語), 「ワン・ツー・フィニッシュ」(自動車レースなどの競争で1位、2位を同じグループが独占すること)など「ツー」と表記するが、「トゥー」という表記はあまり見られない。被験者の6割が「トゥー」と表記したことはどう考えればよいのだろうか。two, to, tooなどの原語の発音が「ツー」よりも「トゥー」に近い音であることと関係があるかもしれない。小林(2005)は、英語音の日本語化にあたって、原語により近い発音を実現するため日本語の音韻規則に適用されない、外来語のみに見られる発音があることを指摘している。その一つに「トゥ」音を挙げている(p.28)。また「ツー」については、一般に母音挿入が最もしやすいのは「ウ」であり、次に「イ」であるが、/t, d/に「ウ」, 「イ」を挿入すると英語の/t/の発音が変化してしまうので、次に挿入しやすい「オ」が選択される。ところが、挿入母音の選択として第一候補はあくまでも「ウ」なので/tsu/と発音する可能性もあるのだとしている(p.32)。

## 7. 中国人日本語学習者の視点から

本調査の実施に平行して、筆者勤務校の中国人留学生に同じ調査に回答をしてもらった。その結果は、日本語教育の現状を如実に反映するものであった。多くの学生が、英語は読めるけど、カタカナ(調査ではひらがなも可とした)でどう書けばいいかわからないという回答であった。

A氏は日本在住10年の中国人(日本で経済修士号取得)である。A氏は、room, book, little worldをなぜ日本人は「ルーム」, 「ブック」, 「リトルワールド」と表記できるのか、不思議でないと証言している。

李小华(2002)は、200人の年齢や学歴の幅広い層の中国人を対象に英語アルファベットの読み方を聞き取り調査した。それによると、中国人は英語式でアルファベットを読む傾向にあり、中国語式には読まない、ということである。ここでいう中国語式というのは、周一民(2000)や贾宝书(2000)が提案する中国語の音韻体系内の読み方を指す。例えば、「L」を/ailou/, /ailo/と読むことで、これを規範としようとする。李の調査結果では54%が/el/と、41%が/elo/と、

圧倒的多数の中国人が英語の語音に似せて、もしくは近似音で読もうとすると指摘する。

楊錫彭（2005）は、中国語の文中でアルファベット略語や英語がアルファベットのまま表記される（“外文字母詞”）の場合、その読みは中国語の体系をはずれる。これらは中国語の音韻体系に引き込まれた「外来語」ではなく、あくまでも「外国語」の code mixing であると指摘する。

一方、日本語は仮名表記がある。外国語を日本語の音韻体系の中に引き込むことができる。つまり、日本語化するわけである。たとえ、日本語の文中でアルファベット略語や英語がアルファベットのまま表記されていても、これを日本語音化する。このことを「仮名化」と呼ぶと、「仮名化」の有無が中国語と日本語の違いである。中国人学習者にとっての日本語学習の干渉材料がこれであると考えられる。同様の母語干渉は多くの中国人学習者が共通して経験していることと推測される。（なお、「アルファベット略語」ということばは『アルファベット略語便利辞典』より引用した。）

## 8. ま と め

現実に日本で生活していると、好むと好まざるとに関わらず相当な量の外来語に接しているはずである。日本社会で就業するような場合を想定すると、日本人がカタカナでどう書くかを「正確に」知ることは必要なことである。今回、日本語母語話者の表記の実態を傾向として示したことは意味があると思う。

## 参 考 文 献

- カッケンブッシュ寛子・大曾美恵子『外来語の形成とその教育 日本語教育指導参考書16』1990  
プレム・モトワニ「日本語教育のネック—外来語・特集外来語と日本語教育」『日本語教育』74号 日本語教育学会 1991  
大曾美恵子「英単語の音形の日本語化・特集外来語と日本語教育」『日本語教育』74号 日本語教育学会 1991  
小林ミナ・カッケンブッシュ寛子・深田淳「外来語にみられる日本語化規則の習得—英語話者の調査に基づいて・特集外来語と日本語教育」『日本語教育』74号 日本語教育学会 1991  
稲垣滋子「外来語表記の基準と慣用・特集外来語と日本語教育」『日本語教育』74号 日本語教育学会1991  
玉岡賀津雄「中国語と英語を母語とする日本語学習者の漢字および仮名表記語彙の処理方略」『言語文化研究』17(1) 1997  
茜八重子「日本語学習者に見られる外来語表記の誤りについて—開音節化の規則体系がどのように片仮名表記に表れるか」『講座日本語教育』34 早稲田大学日本語研究教育センター 1998  
馬瀬良雄・中東靖恵「日本語教育における外来語表記の諸問題—韓国語母語話者の日本語学習者の場合」『フェリス女学院大学文学部紀要』33 フェリス女学院大学 1998  
岡本佐智子「外来語の習得ストラテジー—中国で学ぶ中国人研究者に見る外来語の中間言語（中国赴日留学生予備学校1995-96年度博士班初級日本語学習者から）」『留学生日本語教育センター論集』23 東京外国語大学 1997  
黄蕙芬「台湾人日本語学習者の外来語習得に関する調査研究—教科書の語彙調査と表記習得状況を中心に」修士論文・東呉大学（台湾）2006  
小宮修太郎「学習者の出身国別に見た外来語の理解度に関する比較考察」『日本語教育論集』筑波大学留学生センター 1997  
彭飛『外国人を悩ませる日本語から見た日本語の特徴—漢字と外来語編』凡人社 2003

- 堀切友紀子「日本語学習者の外来語に対する苦手意識と受容態度—英語母語話者の場合」『異文化間教育』28 異文化間教育学会 2008
- 堺典子・西平薫『ニュースからおぼえるカタカナ語350』アルク 1999
- 小林泰秀『日英外来語の発音』溪水社 2005
- 李小花「再谈字母词的读音问题」『语言文字应用』2002(3)
- 周一民「VCD 该怎么读—谈谈英语字母的普通话读音」『语文建设』2000(6)
- 贾宝书「关于给字母词注音问题的一点思考与尝试」『语言文字应用』2000(3)
- 杨锡彭『现代外来词研究』上海人民出版社 2007
- 兼古和昌他編 篠崎晃一監修『アルファベット略語便利辞典』小学館 2006